

MORNING
KC
1672

へいげモノ

Hyouge Mono

6

617

山田芳裕
YOSHIMIRO YAMADA

講談社



1672
MORNING KC
KODANSHA

へいげモノ

6
Hyouge Mono
YOSHIHIRO YAMADA

Onbe Furuta Toyotomino Hideyoshi
Senno Rikyu Hechikan
Souji Yamazoe



TEA FOR UNIVERSE, TEA FOR LIFE.

HYOUGEMONO 6



第五十四話 We Are Tea World

第五十五話 I Shot The RIKYU

第五十六話 God Save the 織部

第五十七話 俺たちの足跡のBallad

第五十八話 ーから出直します

第五十九話 I Can't Get No 満足

第六十話 呪われし夜

第六十一話 烈・業・狂

第六十二話 アナーキー in 日の本

第六十三話 ハロー Mr. モンキー Jr.

第六十四話 古田織部と炎達



9784063726725



1929979005146

雑誌 42667-72

ISBN978-4-06-372672-5

C9979 ¥514E (0)

モーニングKC 講談社

定価：本体514円(税別)

Oribe Furuta, princeps militum captus doctorina theae et cupiditate
qui comprehendit animam splendidam genii Nobunaga prospectantem totum
mundum et spiritum profundum Senno Rikyu docti doctorinae theae
nunc facit iter per ridiculos dictos Hyougemono a indigenis.
Iussu Hideyoshi, principis ministrorum imperatoris quem dicebant
Kansoku, egit Magnam Celebrationem Theae in Kitano.
per ostentionem singularem ad quam conveniunt fanatici rusticoorum
virtutum Oribe operatur studiosa.

Vita vel mors, res militaris vel cupiditas,
illa erit quaestio etiam maior!

茶の湯と戦国に魂を穿かれた戦国武将・古田曜郎。

天才・信長から壮大な世界性を、

茶聖・千利休から深遠な精神性を学び、

「へうげもの」への道をひた走る。

関白・秀吉の号令一下、北野大茶湯挙行。

空前絶後のわび鉄砲EXPOに、戦国イノチガケ。

生か死か、武か教育か、それがますます問題だ!!



プラスチック……鉄……アルミ……

密器にもいろいろありやすが

お茶を飲んで一番うまいのは

やはり陶器のようです

特にヘリが厚だった物の方が

なぜかうまいことを最近知りやした

桃山期の器に「ヘリ厚」が多いのは

当時の人が何事でも最もうまくなる物を

知り尽くしていたからでしょうな

さて当世はどうか

「へうげ十作」の創る面白焼

造った方は羨ましいことに

うまい茶を頂けることでしょう

山田芳裕



Oribe Furuta

Toyotomino Hideyoshi

Senno Rikyu

Souji Yamanoue

Hechikan

Oribe Furuta
Toyotomino Hideyoshi
Senno Rikyu
Hechikan
Souji Yamanoue

へうげもの

TEA FOR UNIVERSE, TEA FOR LIFE.

KODANSHA

Hyouge Mono



6 山田芳裕
YOSHIHIRO YAMADA

Oribe Furuta, princeps militum captus doctorina theae et cupiditate
qui comprehendit animam splendidam genii Nobunaga prospectantem totum mundum
et spiritum profundum Senno Rikyu docti doctorinae theae
nunc facit iter per ridiculos dictos Hyougemono a indigenis.
iussu Hideyoshi, principis ministrorum imperatoris quem dicebant
Kankaku, egit Magnam Celebrationem Theae in Kitano.
per ostentionem singularem ad quam conveniunt fanatici rusticorum
virtutum Oribe operatur studiose.
Vita vel mors, res militaris vel cupiditas,
illa erit quaestio etiam maior!



1672

WIDESTRONG LANCE 205
MORNING KC
KODANSHA

へうげもの

6
Hyouge Mono
YOSHIHIRO YAMADAOrie Furuta Toyotomino Hideyoshi
Senno Rikyu Hechikan
Souji YamanoueMORNING
KC
1672

へうげもの

Hyouge Mono

6
YOSHIHIRO YAMADA

山田芳裕

講談社



9784063726725



1929979005146

雑誌 42667-72

ISBN978-4-06-372672-5

C9979 ¥514E (0)

モーニングKC 講談社

定価：本体514円(税別)

Orie Furuta, princeps militum captus doctorina theae et cupiditate qui comprehendit animam splendendam genii Nobunaga prospectantem totum mundum et spiritum profundum Senno Rikyu docti doctorinae theae nunc facit iter per ridiculos dictos Hyougemono a indigenis, lussu Hideyoshi, principis ministrorum imperatoris quem dicebant Kampaku, agit Magnam Celebrationem Theae in Kitano, per ostentionem singularem ad quam conveniunt fanatici rusticorum virtutum Orie operatur studiose.

Vita vel mors, res militaris vel cupiditas, illa erit quaestio etiam maior!

系の通と物陰に魂を奪われた戦国武将・古田勘部。

天才・信長から壮大な世界性を。

新選・千利休から深遠な精神性を学び、

「へうげもの」への道をひた走る。

蘭白・秀吉の号令一下、北野大茶湯挙行。

空前絶後のわび歌舞EXPOに、勘部イノチガケ。

生か死か、武か歌舞か、それがますます問題だ!!



Orie Furuta

Toyotomino Hideyoshi



Senno Rikyu

Souji Yamanoue



Hechikan



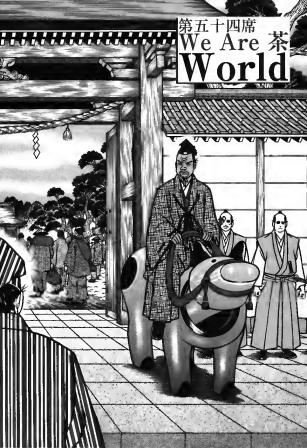
1587年10月1日早朝
京・北野天満宮（京都市上京区）



第五十四席
We Are 茶
World



第五十四席
We Are 茶
World











トラも左様に
思つか……

実は先日
利休殿の茶に
招かれたのだ



俺は……
これまで数々の猛者を
斬り倒してきた……

あの信長公を
面前にしても
怯むことはなかつ
たのだ……

それが……
それがだ
……



怖かった
……

茶室にて丸腰で
利休殿と対面し
……

俺は恐ろしくて
小便を洩らして
しまった……



何に恐れたのか
未だわからぬが
……

あの迫力は
古田殿には
ない……



俺もね

利休殿に
招かれた
時ね

凄
かった



茶の湯は知らないから 願ばかり見てたらぬ

万事
落ち度いて
堪やかで――

「いざあさん」
という気負いが
まるでなかったよ



虎はね

狸物を騙う時
一切の気負いを
消して近づくと
申して

武藝者ならば
達人の域を
超えておるとな
……



皆よう
集まった!



大田原には悪いが
天下一の将方は
明らか

ちよつちゆ

これより
菅原道真公を祭る
北野の森にて
大茶湯を始める！

あらゆる名物を
本殿に集めたゆえ
心おきのう拝見
せい！

午前中は食に利休
津田宗及に
今井宗久が皆に
茶をもてなす！！

日本の美は
かくなるものと
胸に刻み 里へ
帰るがよいぞ！！







こちらっ
押すな！
並べい！

名物を持見
するは
武人が先ぞ！



利休！

茶席のほうは
整うたか？

はい……



そう不満
があるな！

これでも黄金や
庫・高麗産は
抑えさせたのだぞ
！



わび敬奇の祭典
だろうと
天下人としての
威厳も必要ぞ！

ほれっ
見ろ！

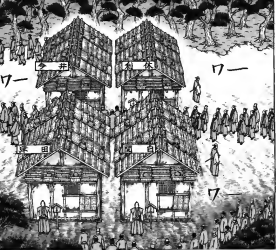
民はあれほどに
喜んでおるうが
！















せめて雪隠方に
真のわび書の手
紙を……

この機密
をきつて
くだなりませ

おれ……
おれ……

師からの
玉音・訓令と
受け取って良
いのか……？

とすれば
残る強敵は
……

ノブ
ただ一人
……!!

見えた
……

うすぼんやり
と頂の影が
……!!!





1587年10月1日(壬午)
京・北野天満宮(京都市北区)

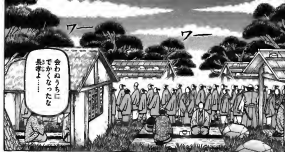


そしてもし
利休が本能寺の
一件を持ち出し
抗うなら

口を封じ
ねばならぬ

第五十五席
I Shot The
RIKYU





会わぬうちに
でかくなったな
長男よ……



屋敷ができた
ばかりだからな

この機に数番に
通じた下女を
見つけねばのう



このことは
お城の御上
には言に……

聊しも哀う
なった



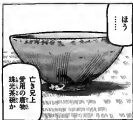
測りでは
よう極めて
おるか？

ご心配なく
父上

新角の大茶湯で
織田長益が茶を
仕に問わぬのです
か？



















兎に角！



何を申す



陛下を上から
見下ろすは
不届き千万！



即刻中止し
茶席ごと
立ち退かれよ！



言い掛かりも
甚だしい！！

釜は預から
せてもらう
！











左介か



先程回った限り
では 古田殿が
一番かと……

いずれにしろ
利休殿を越える者
は見当たりませぬ



懐しの神谷の刺客が
間に合えておれば

俺が応援して
悪判を高める
ものを……









あのノ實と
いう男……
元は京・堀本屋
の主……



「八」の字は
「人」の字の偏
にて……

「ノ實」とは
「人に及ばぬことを
貫く」との意に
なるうかと……



亡き旦那・結城に
茶を置け……

初めの号を
「知夢殿」と
申します



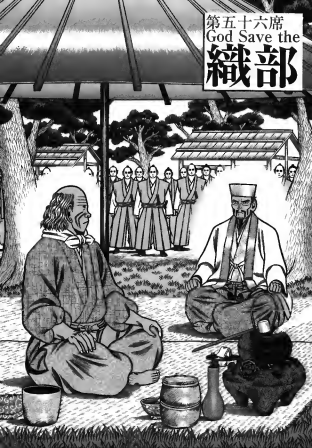
もうよい



余は葬体の
茶置と等しく

この男の
数々に
斬られた

第五十六席
God Save the
織部









だーです
……………

これ位の所で
大茶湯を終に
なすつたら……

早う寢床に就いて
今のまんま
軽い心持ちで
御側女と乳繰り合うのも
いいもんですぞ



それ以上の客は
とても無理な
ませぬよ……

何百とが相手なすつた
間白様が
一番おわかりなはず
じやあ……









二百と五十を
超える客が
列をなしたが
その証……!!

この古田總部正
恥を忍んで
請いまする!!

何卒今一度
機会を……
!!







やはり太閤重臣は
利休殿以外あり得ぬ
と……

御心変わり
なさってくれた
のですな



安心致し
ました
兄上……

この公の場にて
天下一をお決めに
ならなくて……



何を申す
秀長

先に疑はしたは
神谷兼清の上達を
碍つためぞ



丁度良い具合に
左介が口実を作つて
くれたわ……

天下一は
ノ實でも獲わぬ
ところであつたが
……

先々を案ずれば
神谷に越した
ことはない







これに上洛中の
神谷殿が加わる
やもしれぬ……

要請せし客となるは
關白様や樂正
朝川殿、斎藤と
佐々木……



それがしが集めた
物品の全てに
ござる

そして今月十二日に
ノ買物と館議を決す
茶会を催すことに
なつた……



上田殿……

家大將
加藤景綱殿

力を貸して
くれぬか



それがしは
大茶湯にて
制書を學びしきつて
しもうた……

いかなる

いかなる茶席を
設ければ
天下一となろうや
……!!!









いや



使えぬ物を
持つてきて
しまつて……

申し訳のう
ございます



見えましたぞ
景延殿

わび数奇の
最果てが



1587年10月12日
京・聚楽第前庭の東区

いまして
欲を出せ
神主よ……

變むなら
某殿様様に
聞いても良い
のだぞ

と……
とんでも
ござりませぬ

私闘きでは
とても御まり
ませぬ……

私めは一介の
庶人で充分

上通して
御井邊や御茶屋に
もてなされただけでも
恐縮してゐるのです

某殿の用意が
整いました
関白様



第五十七席
俺たちの足跡の
Ballad





さ……
御早く



昨日は何処へ
外出しておった
？

秀長



茶屋など入らず
とも 天下一は
決まっておるわ
……

神谷にその気が
ない以上
ノ南しかおらぬ
……



俺好みに染まらぬ
利休は降ろす



武人が……
生まれの良い者が
茶屋茶舗では……

俺を覆むは
目に見えて
ある……



船川 蘭斎などは
以てのほか……

いずれに
しろ……





おのれ
ノ賈!!!

いかな
つもりぞ
!!!



か……
母様!!

母様が何故
ここに……
!!!?



驚たわけ
めがー

そこに
座りやーっ
!!



ええか
藤古……

利休さまを
隠ろしたら
いかなぞ……

あにやーな
ええ男を
おみやー……



















いつぞや密匠が
おっしゃいました
な……

「黒は古き心
なり」と……

古き奥き
黒くしの服を……

どうぞご堪能
くださいませ

恥ずかしながら
「古き心」なるもの
を想い 造って
みました……


実に……

実に面白き
創意……

松の木に隠けた
基路も御見
しましたが……

ここまでは致せば
わざとらしいを
通り越して 笑みすら
漏れてきそうに
なります……






あなたのなさって
おることは
わびではござい
ません

古田織部正様は
天下一どころか
未熟者にござい
ます

あなたのなさって
おることは
わびではござい
ません





古田織部正様は
おやべのさま
天下一どころか
未熟者にござい
ます





1987年10月
第一巻第三回 三田隆一郎氏
京都府京都市

園の南側に村・
谷戸集落（米八斗三升）
同じく平六
米七斗五升



同じく奥市
米二斗三升

しかと受領
致しました

よし
神地も霜々と
進んでおるな



既に不公平が
あつてはならぬ

引き続き
確保せよ



かしこまり
ました

ただし
無理強い
は致すな



なぬ、安村・平蔵・
新六郎につかましては
米割分がとれます

如何致し
ましようや？

我らが暮らしも
領民あつてこそ
よ

納期は
都合付けるゆえ
分割でも構わぬと
申しておけ

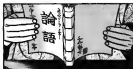
第五十八席
一から
出直します













公卿に就しまは
馳奔に相きとうなる
と申うたが……

そうも
ならぬわ……



何も欲しう
ならぬと
いうのも……

つらいものよ
のう おせん
……



大坂城の
一物など
……

あまりお腹に
なさいますな
……



思えば實に
惜みよ

いや……



大坂城では
……

左介殿を卑下
する風習は……

何一つ耳に
入りませんよ



いつ死しても
おかしくない
風情で生き残り
……

子玉にも
恵まれ……

願ふもせず
こうして
暮らせておるの
だから……



だが、空気に
心通はいても
……



心通はいても
魂という物は
……



風情に滴る
冷や汗は止まぬ
のよ

確かに生きて
おったという証が
欲しうてたまらぬ
のだ



数寄の毛声
世に残らばと
願うたが……



豊前伊達……
小田原の北……

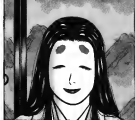
頼山陽……
火種はまだまだ
ある……

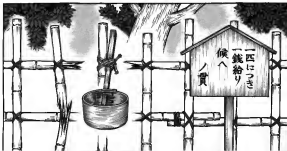
武功を挙げ難き後
など、いつ戦場の
塵芥と消え失せるか
わからぬ……



人間五十年
……

滅せぬもの
だらけの
生涯……







奥の立て札の
とおりじや
判体さん

配下のモンが
うちの町を通る
時に……

馬一匹につき
一圓ずつ
納税に入れて
くれれば充分よ



何をなさって
おるので……？

それでも
わしにや賣い
きれんがのう



わしももう
先は悪いこと
ない……

書物やら
道具やらを
少しずつ処分して
おるのよ







これに類した
ことはござい
ますまい

世がわびに
論するならば
……



貴人から
下々の者まで

皆が真の
わびの態を
見いだすならば
……



左様に
ございます

さりとて
私の罪が働き
ゆえに……



あらゆる争い事など
消え失せ
心静かに暮らしを
営めましょう

それを為し遂げる
ことが私の宿命で
あり 生き甲斐に
ございます



おまえさんは
わし以上に才気に
溢れ、情にも
厚かったが……

天下國家の事まで
口を出す仁じやあ
なかつた……



二十年の歳月は
人を変えるもの
のう……



古藤さんに
言うにわた
のう……

「過ぎたるは
なお及ばざるが
如し」と……



それはおまえさん
にも 書えるのと
違つかまや？



人の家の
運成には
関りがある
のじゃ



巴のことは
見えて悪いもの
じゃ……

もう生きて
食うことも
なかりうから
言うところや……



私では
皆にわびを
伝えられぬと
申されますか



しかしな



今の田中と西郷
……いいや
利休居士は

サラッ



限りを知らずば
災いを招きかねん
……

おまえさんは
己が業を謝しておる
つもりなのじゃろう
……

業火に
の
吞まれとる
よ







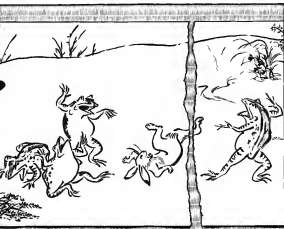


合戦とならば
今度^{こんど}は生き残れぬ
ような気がしての
.....

第五十九席
I Can't Get No
満足







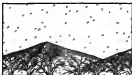
















これは
驚きました
利休様っ



いや……
神妙も行き過ぎ
雲に隠のある住まいに
なっておられる……

奥のわび美人なら
こうでなくては
……



お見えになるなら
俄えてくだされば
良いのに……

京へ上る途中
あなたのことを
思い出しましてな
……





お蔭に
ございます

いま一つ
贈り物をお持ち
致しまする

清く儉たれた
住まいといい

あえて突然
訪れた私に
.....

あり合わせの物を
暗闇に瞬時に
仕立てるもてなし
といい.....

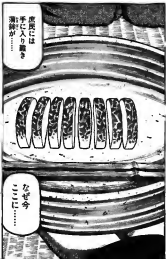


この亭主は
眞のわび職寄を
知っておられる
.....

やはり
.....

やはり私の
為してきたことは
間違うてはいませぬ
八雲殿.....

わびの美はしかと
世に根付き始めて
おりまする





住まいの趣
御馳走……

全て合点が
ゆきました



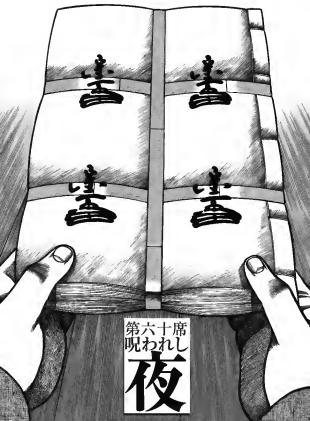
あなたは
私の援助を
存じていて……

貴方の事も含め
周りに用意して
いたのですな……







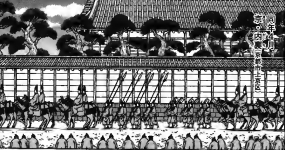


第六十席
呪われし
夜





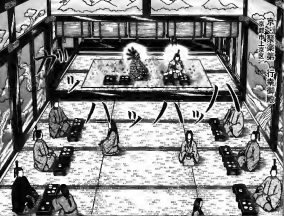




















その前には
失礼をば……

しかし当世は
酒み酒とて
寛政とは
申せませぬぞ



酒は呑み慣れた
濁り酒で充分……

上方の酒は
旨いが……

安土で出された
透明な酒み酒
などは 寛政に
過ぎる……



ひとつ呑んで
みてくだされ



これは
御座は伊丹の物に
ございます



たんし
淡旨……………



伊丹は
亡き奥兄が縁ゆえ
多くの仕入れが可能……………

「酒」を醸う
徳川様には
持ってこいでは
……………



たしかに
安土で出された
大船の酒造家や支那酒は
庶民には手が届かずの酒
……………

しかし
この酒み酒なら
……………

町家の離道にて
安土で手に入り
常飲にも
向きまする



めくまで束縛き
お付き合いの印
にて



「この家屋に
これを渡すこと
で……」

借りを返そう
てか 古田殿
……



利休殿の手す
「わび」とは
かような事なのか
な……



「酒」もなく
定きうえに
言いとば……



未熟者なるを
思ひ出します
れば



わびの語は
お止めください







茶々
はこれに
おりまする!!!

如何なされ
ました
殿下!!!



利休
~~~~~  
!!



利休っ!!

助ける  
利休!!!



終







第六十一席

烈・業・狂



同年9月  
摂津国・大坂城  
(大阪市中央区)







御側室・茶々様は  
確かに御懐妊  
なされました



ようやく

ようやく

この調子



やはり  
確しでは  
なかった!!

しっかりと物づ  
相手さえおれば  
男を証明できる  
のだ!!

死なれたが  
以前にも手を  
生ませてもらったし











世情多味除  
無思不研窮  
平生見諸老  
今日自成翁  
觀字眼猶修  
龍碑馬名聲  
信天行直道  
休問馬牛風  
月不照禪者  
幾得教字種  
以述唐書之  
雲字史書





「生島虎堂」

さすがは  
天下一の薬師と  
言われる……



薬に種やかで  
な力強い薬效  
……

しかし  
利休居士……

これは関白様  
御座成のはず  
では……?



私が薬具の直しを  
する、種かって  
おるのです

この度は吉澤和尚  
徳島の真言に  
よくお断しください  
ました





自暴自棄に  
なつてゐるのでは  
ありませんか……



彼を呼さんと  
間白様に頼み出た  
らどう……

何か



憑き物が  
落ちたよう  
感じるのです



同年10月

京・西芳寺(京都府西京区)



少しずつ費用を  
兵隊に充てるが  
良い……



徳川様の手引きで  
本陣の奥が上座  
したは良いが……

頼朝・源氏  
氏政・氏直が  
陣を下げて来ぬ  
ことには……

まだまだ  
豊臣方と戦に  
なりかねぬから  
の……



やはり  
良い……

うんうん……



心得ました  
吉田様

徳もすや  
屋敷へ戻る

日本の本最古たる  
この枯山水……

「勝手に岩がゴロゴロ  
落ちてきた」と中さん  
ばかりの無造作感が  
たまらぬ……

そしてあの  
鯉魚石……

水など張らずとも  
ドボツと潜る鯉の  
形が 奥を想わす  
ではないか……

いや……  
久々に飲もう  
なつた……

来た者が戦乱に  
塗れておつたなら……

すかさず  
鯉魚石一つ  
救い出すものを  
の……

それに比べ  
我が屋敷と  
きたら……







よく  
ござります

戦乱で焼失  
する前は……

西芳寺<sup>さいほうじ</sup>浄土堂<sup>じやうどどう</sup>と  
いえば  
絶景の代わり目撃  
だったようです



まずいな  
……



な……  
何か？

良いから  
描け





終

1589年5月  
京田楽楽第(京都市上京区)





第六十二席  
アナーキー in  
日本の本





飽きとってから  
吃られるは辛い  
ものだ……



忙しい旅の  
一客一亭の茶に  
呼ばれて 光榮と  
思わねば……

たとえ  
吃られるにしろ  
腹まじきこと  
ですぞ



上座様の材木番により  
作業もそつなく進んで  
おります

いやいや  
恥がわれた腔を  
こなしてあるまで



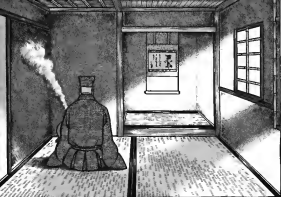
所定の場へ  
運びましたぞ  
料休殿

かたじけ  
なく……













茶碗が……  
……無い!!

肌と茶碗の  
色が一体と  
化し……

点前のみが  
空を泳いで  
おるようだ!!

び……微妙な  
明るさはこの  
ためだったか!!

暗き茶室での  
黒茶碗の見え方を  
更に推し進め……

光に溶け込む  
赤を以て  
存る事を完全に  
消したのだ!!



私が一介の  
おび哉音者で  
あった頃の



この香茶碗  
は……

香茶碗を創る  
以前のもの  
です



あつう……



「轉体」という  
意圖にまでなり  
……

「風」の持つ  
良さに  
取り憑かれ……

皆を驚き動かし  
場へと誘う事に  
のみ、成功して  
おりました……



八雲殿の  
申された  
とおり……

私は薬の火に  
香まれていた  
ようです









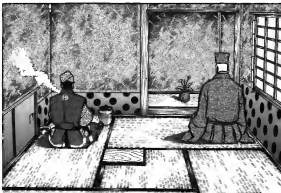


今の私は  
利休ではなく  
.....

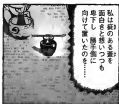
田中幸四郎に  
ごさいます



同年5月下旬  
京へ戻来す  
古田庵邸屋敷









この御方は  
もはや……



もはやこれ程  
までに……



先日の  
宗匠の茶に  
紹かれ……

それがしは  
己を棄下するを  
やめ奉じた……



宗匠ほどの御人でも  
歳<sup>トシ</sup>の如く  
不完全ならば  
人は皆不完全……

むしろ  
そこが面白い  
のだろうと



「過ぎたるはなお  
及ばざるが如し」  
……

確かに  
この言葉に  
偽りはない  
ませぬ……



されど人は  
過ぎたる程に  
……

及ばざる程に  
面白いと感ずるも  
真の……



その面白さが  
「和」を生む  
ならば……

これもまた  
わび勘弁かと  
思ひ至るところ  
です



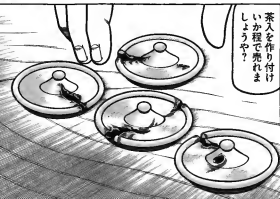
古縁種の歴史の  
如く、大きな物で  
過ぎたれば……

わびとらしきで  
目を伏せる者も  
現れますれば



難しいもの  
ですな……

小さな物の如き  
物なら面白くも  
なり申すが……





1589年7月  
京の緊要御京師市上京区







第六十三席

ハローMr.  
モンキーJr.









まったく  
その方の気性  
相模の国に  
向いておる！



これは  
手厳しい！



公家の真似をこく  
男前に聞かせたい  
ものよ……



曲に衣を着せぬ  
物語に  
その数寄！

古の御重武士も  
左様であった  
ろうな！

いや……  
俺もその方を  
見聞おうぞ



決して秀吉に  
頭は下げぬわ

万軍攻めてこよう  
と一人残らず  
返り討つてくれ  
よう



よくぞ……  
申されました  
殿……

我らも誰かは  
一つにござい  
ます



相様は御物が  
盛んで、真い  
給際もおる！

宗二の眼に  
透うた名物を  
たんと生み出し  
てくれ！



数合御用  
舞むぞ宗二

わび敬奇では  
当方の知物も  
名物になるそう  
な……



私はあれほど  
武人を嫌うて  
おったのに……



だ……  
ち……  
ち……

この學心地の  
良さは……



月代も野らず  
鬘女も嫌わす

名物すら持たぬ  
時代遅れの通中  
なのに……



この眼……

わび敷寄を  
欲する  
この熱き眼が  
私を……



武人との  
闘い……

真の一国建立は  
あり難いと  
思っていた己が  
……

小さく  
見える……



私は今まで  
……



新しき価値  
を……

たとえ名物が  
なくとも……

わびを言い求める  
一体感と現実感が  
手に取るように  
わかる……







●金毛一獅子





いやいや いくら  
持ち上げても  
持ち上げ足りませ  
まい

この古楽が  
九州より戻って  
こられたのも  
……

度量なまる  
利休居士の  
思慮があつたれば  
こそ



上機嫌な所へ  
願ひ出たのが  
幸ひしました



関白様は  
御手が生まれ  
……



申し遅れまし  
たが……

三門へ安置せん  
あなたの木像と  
天井画をご用意  
したく



天井画は  
古楽の舞す  
絵柄にて……

まづ 膝を  
してやつて  
くださる



大層に  
過りまする

まあ そう  
申しますな



久しう  
ございます  
利休様！



この長谷川半右衛門  
これほどの機は  
ございませぬ！

一世一代の絵に  
仕上げる所存に  
て……！！



一つお願いが  
ございます  
半右衛門……

なんなり  
と！





北条との戦は  
もはや避けら  
れぬ

細川殿

貴公には遠慮に  
ないし儀礼の  
作法を、長九郎に  
お教へ願いたい

出陣は来春  
二月となる

その前に細川は  
陣を強めんが  
ため……

関白様が  
雪女・小姫と  
我が仲・長九郎との  
婚約を果たす

そして  
古田殿

京は初めての  
長九郎え……

いろいろと  
案内してやって  
ほしい







秀忠様  
か……

実にカシツとした  
歌人らしい  
良い名に聞こえる――



いや……  
お近づきの印に

それがし  
秀忠様に  
道楽を持って  
参りました



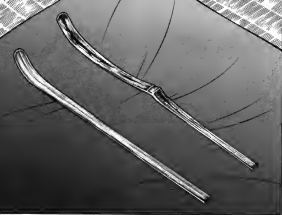
要らぬ方は  
後日受け取りに  
参ります

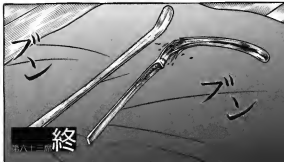
お迷いならば  
なんなりと  
ご相談を

では  
これにて



どちらか一つ  
お選び下され





1590年1月

山梨国・甲府市山梨町

まずは  
お蔭様の病が癒え  
何よりにごさい  
ます

どうも  
我が一族は  
病に弱い……

これを機に  
お蔭の名を  
「鶴松」と改め  
運氣を定えるわ





第六十四席  
古田織部と  
**炎達**





帝しか使わぬ  
明渡東の妙薬じゃ

早う治して  
小田原まで  
攻めにこいっ  
男長っ



ゴホッ

ゴホッ

かたじけのう  
ございます  
見上……



お世話が  
元氣になられて  
何よき……

私がいのう  
なつても  
貴殿は安泰  
ですな……



戯れ言を  
申すな！









曹院を二階  
奥に二重櫓の座を  
設けております



ま………  
まるで………



利休殿が  
建てられた  
数寄屋………











凄……い……

凄すぎる……

あの  
方法寺の  
数寄屋は……!!

もはや明く所も  
無いまでに暗黒化し……

あの資金の莫大の  
細く、すぐに組み  
立てられ……

「酒」など一切  
要らぬとばかりに  
安手仕上げる妙……

やられた……

されど……

この  
古田様とて  
負けではおれぬ……!!

古田様が  
やられたぞ  
!!

既に  
こちらです  
古田様!!

同年2月初旬  
美濃国久尻(岐阜県土岐市)







右から志野……  
紅色志野……  
灰色志野に  
ございます

白き漆地に  
鉄入りの泥染を  
掛け、色を磨けて  
みました



でかしたな



黒・高麗漆には  
ない、良い色ぞ

されど

眼の肥えた俺や  
京の数寄者の殿閣を  
直撃するまでには  
届っておらん





金時を誰が如く  
昇天せしめるに  
は……



絵付けに  
限る



これは  
……



各地の者所や  
心打つ物々を  
選んで描いて  
みた！

絵付けの手本は  
長谷川等伯と中土  
繪師に頼む！

掌中に紙巻を  
見ながら読む茶は  
観客者にとって  
堪えられぬものと  
なろう！





新しき繪付け茶碗  
を その店にて  
大量に売るので！

新兵衛が店  
美濃屋という大砲  
にて 我らが  
「美濃物」弾を  
天下へ撃つ!!!



「美濃屋」の所  
すみませぬが



わび敷寄者に  
とって「無」など  
不要!!!

伊丹の酒の  
例が如く

安き良き物を  
欲しがる者が  
群れをなそうぞ!!

原身は「瀬戸原」に  
してどうなっています

「誰」は不要と  
申されましても

あの徳長公が仕切ら  
れた瀬戸の方が  
はるかに有名です  
……

国際の産地としては  
織部正徳の  
仕切らるる瀬戸より

またも  
織田の名には  
勝てぬのか

まあ……  
まあよい  
それもよい

なにとぞ  
お身体にはお気を  
付けくだされ……

関東は東夷なる  
屈強な武人の地  
にて……

古田様にもしもの  
ことがあらば  
我らの命運も尽き  
ますれば……



承知して  
おる

死んでも  
死にきれぬ  
わ

今この刻より  
生まれし蟲が



「瀬戸物」が……  
器の代わり言葉に  
なるまではな

終



「へうげもの」第6巻は、モーニング07年32号、34号、37号、39号、41号、43号、45号、47号、49号、51号、08年1号に掲載された作品を収録したものです。編集部では、この作品に対する皆様のご意見・ご感想をお待ちしております。

また、今後「モーニングKC」にまとめてほしい作品がありましたら編集部までお知らせください。

※なお、お送りいただいたお手紙・おハガキは、ご記入いただいた個人情報を含めて著者にお渡しすることがありますので、あらかじめご理解のうえ、お送りください。

東京都文京区音羽二丁目十二番二十一号

郵便番号 112-1800

講談社「モーニング」編集部

モーニングKC係

★この漫画はフィクションにて候。実在の人物、団体等と無関係にて候。

N.D.C. 726 226p 19cm

モーニングKC-1672

# へうげもの 6

二〇〇八年三月二十一日

第一刷発行

※表紙はカバーに表示してあります

著者 山田芳裕

発行所 五十嵐隆夫

発行所 株式会社講談社



東京都文京区音羽二丁目十二番二十一号  
郵便番号 112-1800  
電話 編集部 東京 03-3233-9000 販売部 東京 03-3233-9001  
編集所 東京 03-3233-9002 編集所 東京 03-3233-9003

印刷所 大日本印刷株式会社

製本所 誠和製本株式会社

©Yoshitomo Yamada 2008

（本書の著作権者として「二〇〇八年三月二十一日」に権利を主張します）  
第一巻、第二巻は講談社文庫から刊行されています。今後、講談社文庫から刊行される場合があります。ご了承ください。  
講談社文庫から刊行されている場合は、講談社文庫のロゴマークを掲載いたします。ご了承ください。





# NITTA

## 新田肩衡

源氏の英雄・新田義貞、わび美の祖・村田路光らが所  
持。本能寺の変後、一旦消息不明となる。やわらかい  
面で見ると強りの大きい面が特徴。青年が至極賞玩。  
墓を見つけては嘆きずりしていたとも。

伝来：(新田義貞)……村田路光……信長——大友宗臣

——美古——像頭：新田義貞像

# NARA SHIBA

## 檜柴肩衡



1587年・九州征伐の時、楠部が必勝・耳基めで筑  
前・秋月種実の旗を写かし描寫した。とは歴史に書か  
れていない。これにて得言。三肩衡を全創製。その意図  
は、ざらついた氣が数個っておらぬと言わんばかりにわび  
ており種実(楠部)は。1615年、大坂の陣にて消息を絶つ。

伝来：長井宗室——秋月種実——美古——像頭

# へうげモノ ⑦

永遠のUp to DATE。伊達政宗登場！

純部との1st DATEに、彼が居る！！

08秋コレ発売予定にて候！！

熱血SF巨編

## 『度胸星』

青年は荒野を、三河度胸は火星を日陰す！！

全4巻、激賛発売中！！

TEA FOR UNIVERSE, TEA FOR LIFE.

# Hyounge Mono

6. **KODANSHA**

GOD Save THE QUEEN  
おま+こひさ、

403492

[illegible]

100

LET'S GO CO

1999

**HOT STUFF** / Donna Summer 78

Price and the  
SATISFACTION  
小林 1977

2000

1000

1985

0.15% 0.015%

Bob Marley & The Wailers 1973

1673

STERNEN-PAK 200  
MORNING, INC.